

● 学会発表の内容

triggerとしてのGn-RHアゴニストの使用は、体外受精の成績に影響を及ぼすか

医療法人社団 徐クリニックARTセンター
清須 知栄子 伊藤 真理 峰 千尋 中塚 愛 徐 東舜

■ 【目的】

hCGは卵子成熟の最終段階のtriggerとしては十分な作用があるが、OHSSを引き起こすリスクは大きい。一方のGn-RHアゴニストは卵巣を刺激する時間が短いことから、triggerとして用いればOHSSを防止できると考える。今回我々は、AMHの値が高くOHSSのリスクの高い症例にtriggerとしてGn-RHアゴニストを使用することで、OHSSの防止はもとより、体外受精の成績にネガティブな影響を及ぼさないかどうかを検討した。

■ 【方法】

2014年12月1日から2015年6月4日の期間に体外受精を実施したAMH 5.0ng/mL以上の60症例を対象とした。triggerをhCGとGn-RHアゴニストの群にアットランダムにわけた。hCG群は30症例、Gn-RHアゴニスト群は30症例であった。

■ 【結果】

hCG群とGn-RHアゴニスト群において、採卵から月経開始までの日数比較では 10.9 ± 1.2 日 vs. 5.8 ± 2.8 日 ($P < 0.001$)とGn-RHアゴニスト群の方が有意に早期月経となった。hCG群とGn-RHアゴニスト群の体外受精の成績比較では、採卵に関しては平均採卵個数 14.1 ± 6.4 個 vs. 17.1 ± 6.0 個、成熟卵子 (MII) 率 82.8%(231/279) vs. 76.8%(278/362)、培養に関しては受精率72.6%(308/404) vs. 63.7%(326/512)、胚盤胞形成率および良好胚盤胞形成率は53.9%(166/308) vs. 54.0%(176/326)、26.0%(80/308) vs. 26.4%(86/326)で両群に差はみられなかった。

■ 【考察】

AMH高値の症例にtriggerとしてGn-RHアゴニストを使用することは、OHSSの防止以外にも体外受精の成績にネガティブな影響は与えなかった。